

ALESCO

No.22

February 2024

アレスコ【ALESCO】とは古代ラテン語で

「成長する、発展する」という意味です。

INDEX

- 02… 写真で綴るキャンパスライフ
- 04… 医学部長・保健学科長挨拶
- 05… 卒業生だより
 - 看護師として活躍する卒業生
 - 臨床検査技師として活躍する卒業生
- 06… 看護学専攻 各講座のトピックス
- 08… 検査技術科学専攻 各講座のトピックス
- 09… 認知症予防学講座紹介
 - 認知症予防学講座のトピックス
- 地域貢献活動
 - にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室
- 10… 学術・研究活動
 - 看護学生の異文化看護海外研修の基盤構築
令和5年度学長裁量経費（国際戦略）事業
 - 入試小委員会活動
出身校へ里帰り訪問&本校PRプロジェクト
- 11… 大学院生の研究紹介
- 12… 新任・退職教員からのメッセージ
- 15… 令和5年度卒業研究演題一覧
- 16… 令和6年度学級委員
- 16… 令和4年度後援会事業報告
- 16… 令和5年度後援会役員名簿
- 16… 令和5年度後援会事業計画
- 16… 編集後記



写真で綴るキャンパスライフ

～保健学科の学生たちを学年ごとに紹介します～

看護1年生



健康生活支援実習



新入生オリエンテーション

看護2年生



サークル活動



VR教材を使った看護演習



ヘルスプロモーション実習

看護3年生



小児家族看護学演習



母性家族看護学演習



母性家族看護実習

看護4年生



課題研究発表会



助産学実習



統合実習

検査1年生



化学実験演習



新入生オリエンテーション

検査2年生



医用工学実習



医用工学実習

検査3年生



課題研究発表会へ参加



微生物学実習

検査4年生



課題研究発表会



課題研究発表会

医学部長挨拶

保健学科のますますの発展を祈念して

医学部長 景山 誠二



鳥取大学医学部は、2020年に創立75周年を迎え、その先に100周年を見据えています。この間、「バイオ」の時代に生命科学が生まれ、次いで、看護学と検査技術科学の教育・研究体系が保健学科として組織されました。このようにして、鳥取大学医学部は3学科体制になっています。大学院は、医学専攻博士課程、医科学専攻博士前期・後期課程、そして臨床心理学専攻修士課程と3つの専攻を包含する組織になっています。医療分野に多彩な学問体系が整いました。

医学教育においては、地域社会の社会問題を理解し、それに合った予防・診断・治療を構築できる能力開発を目指しています。とりわけ、保健学科看護学専攻では、看護の方法論の進化を追求し、日常生活の改善を誘います。検査技術科学専攻では、絶えず変化する先進的な医療技術の専門家を志向します。21世紀に入り、いずれの専攻に関連した学問分野も、従来の常識をはるかに超えた新たなアプローチの開発途上にあるように思います。今世紀の看護技術・検査技術がどのような進化を経て医療にどのような恩恵をもたらすか、予想をはるかに超えた展開を期待します。

保健学科長挨拶

高度な知識・技術を身につけた医療従事者・研究者の育成

保健学科長 鯉岡 直人



鳥取大学医学部保健学科は前身の鳥取大学医療技術短期大学を経て、平成11年10月に設置されました。この春には新たな卒業生を送り出します。米子キャンパスでは、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染症対策を行いながら学生の健康を守ることを優先して授業・実習を行ってきました。そのような環境下でも各専攻の専門科目を学び、多様な疾患や病態について学習し、専門職としての知識を身につけることができましたと思います。卒業生には、困難な時代を乗り越えた経験を活かし、新しい社会の創造に貢献されることを期待しています。

保健学科は学部教育だけでなく、大学院教育にも力点をおいており、働きながら大学院で学べる環境を整えています。毎年、多くの卒業生が医療従事者として勤務しながら大学院で学んでいます。保健医療学分野において、医学を探究し、高度な知識・技術を身につけた看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、および教育・研究者を育てることを目指し、教職員一同、全力で取り組んでいます。さらに医療従事者の育成に加えて、社会実装可能な研究も行っています。今後とも、皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

卒業生だより

看護師として活躍する卒業生

周藤美沙子 さん 手術部 看護学専攻 8期生

私は鳥取大学医学部附属病院で、麻酔管理および麻酔のケアを提供するスペシャリストである「周麻酔期看護師」として勤務しています。2年間の大学院教育を受け、専門性を持ち、手術麻酔や術後疼痛管理、医療安全など幅広く活動しています。院内広報誌「カニジル」にも取り上げてもらっていますので、是非ご一読ください。現在は博士課程に進学し、麻酔科の社会人大学院生として、臨床も研究も…と欲張り、やる気だけはあふれる日々を過ごしています。困難なこともあります。学生時代の先輩・後輩・同期と働く特殊な環境のおかげで、愚痴を聞いてもらい、励ましてもらい、元気をもらい、乗り越えています。

近年の社会情勢の変化に対応するため、看護師への期待はさらに高まっています。私の活動が皆様のキャリア選択の一助になれば幸いです。

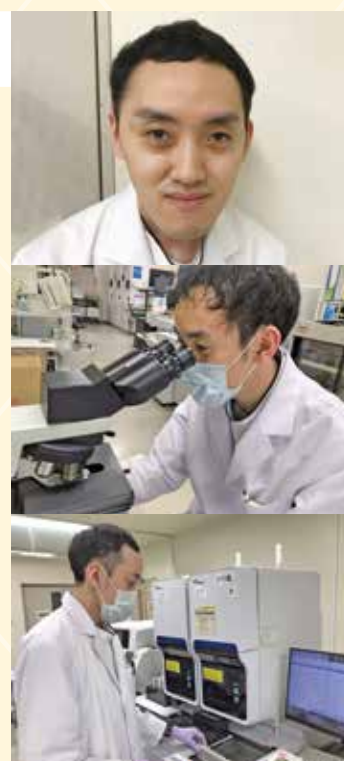


卒業生だより

臨床検査技師として活躍する卒業生

難波 博哉 さん 検査技術科学専攻 第15期生

検査技術科学専攻第15期生の難波博哉と申します。大学院でタンパク質の分子動力学シミュレーションについて2年間研究をした後、鳥取大学医学部附属病院に就職しました。現在、血液部門に所属し、日常業務として血算や凝固線溶検査、末梢血液像目視、FCMによるTリンパ球サブセットとT/Bリンパ球比率の算出を行っています。新型コロナで人手が足りなくなり、FCMによる白血病のタイピングや遺伝子検査などを外注化しましたが、それでもまれに急ぎの検査でタイピング検査をすることもあり、このような専門的な検査は大学病院の強みかと思えます。最近は仕事でよく使うExcelでの作業の効率化を図るためマクロやVBAに手を出していますが、ゆくゆくは血液検査関連の資格を手に入れ、技師としての研鑽にも努めていきたいと考えています。



看護学専攻紹介 各講座のトピックス

基礎看護学講座

◆がんゲノム医療における支援を思考する

笠城 典子

ゲノム情報に基づいた個人にとっての最善の医療を提供しようとするがんゲノム医療は通常の医療にも取り入れられています。そこで、今年度の看護学課題研究では遺伝性乳癌卵巣癌症候群の可能性のある対象者の遺伝学的検査や検査結果、家族への影響や思い等について文献検討を行いました。結果によっては本人、家族の健康管理に役立てることも可能となりますが、対象者によって検査結果の受けとめ、家族への対応は異なります。罪悪感を伴う場合もあり、心理面での支援は対象者と接する機会が多い看護職も対応する必要がありますので、適切な支援を提供するために何ができるのか考察しました。今回の経験が実際に活かされることを期待しています。



成人・老人看護学講座

◆実践による経験型演習とVRシミュレーション演習の融合 片岡 英幸

学部学生や大学院生が、VRシミュレーション演習を実践しています。深夜帯の看護場面、転倒など医療安全に関わる課題などへの実践は、看護学実習では体験することが難しい場面ですが、VRを通して学習することができます。私自身は、1996年頃からパソコンを使ったノンリニアビデオ編集を始めました。1998年頃から頸部内視鏡手術のビデオ演題による学会発表の機会が増え、動画編集をすることが多くなりました。当時としては高速のパソコンに、DSPチップを搭載したビデオ入出力ボードを装着していましたが、S-VHSの画質で動画編集するのに苦労しました。現在、8K高画質で撮影し、3次元VR編集を行っていますが、黎明期の方がずっと大変でした。8K高画質の映像をデスクトップで編集できる時代がくるなんて想像もできませんでした。昔の経験を活かしてこれからもVRシミュレーション演習に関わっていこうと思います。



母性・小児家族看護学講座

◆魅力ある助産師を目指す学生を支援する

本学には、「助産学専攻コース」があり、毎年10人程度の学生を選抜しています。県内の分娩を取り扱う4～5か所の施設やクリニックに協力を得て10週間の実習を行います。助産に必要な知識だけでなく、長時間を要する出産への立ち合いにも関わるため、体力や忍耐力も欠かせないスキルです。指導に関わる助産師も真剣な余り、時に悔し涙も零れますが、学生同士が切磋琢磨しながら10例の分娩介助を達成しています。医療が進んだ現代でも出産は命がけです。助産師の役割は、妊産婦に耳を傾け、安心感を与えること。そして、小さな命の誕生に真摯に向き合い、母子の力が最大限に発揮できる環境を整えることとも言えます。将来、社会で信頼される助産師に成長できるよう誠実にサポートしていきます。

大谷多賀子



地域・精神看護学講座

◆「精神科デイケア」実習で学生が抱く思い

安部 由紀

実習の一コマに「精神科デイケア」での学びがあります。心の病と闘い退院後に生活リズムや対人関係の築き方、さらには社会復帰を目指す治療訓練の場です。利用者さんは幅広い年齢層で仕事に就きたい!人と上手に話したい!家以外に居場所を見つけたい!と自主的に通って来られます。社会技能訓練(SST)、スポーツ、農芸、陶芸、料理、女子会など様々なプログラムがあり、自由に参加されます。学生は、利用者さん同士の楽しそうな会話や活動、協力のご様子から対人技能の向上や穏やかな心を感じると言います。そして心に病のある方が社会と繋がることの意味や大切さを肌で感じ、将来、専門職として自分たちには何ができるだろう?と難しい宿題を頂くのです。



検査技術科学専攻紹介 各講座のトピックス

生体制御学講座

◆新たに始まった遺伝子検査学・実習

新型コロナウイルス感染症により、子供から大人まで多くの一般市民が「遺伝子検査」「PCR検査」の必要性を知ることとなりました。また、多くの疾患の診断に染色体や遺伝子関連検査が取り入れられるようになりました。臨床検査技師はこのような検査に関しても熟知する必要があります。

こうしたこともあり臨床検査技師の教育内容が令和4（2022）年入学者から改正され、新カリキュラムがスタートしました。私の担当する遺伝子検査に関する科目では、遺伝子診断学（4年選択科目）から遺伝子検査学・遺伝子検査学実習（2年必修科目）へと変わりました。

そのためR5年度の2年生より実習が新たに追加されたため、その環境整備にはかなりの時間と経費がかかりました。この実習では、マイクロピペットで微量を正確に測り取る、DNA増幅や検出等での繊細な操作など、基本の技術を学びます。40名を超える学生が一斉に遺伝子検査実習を進めるためには様々な工夫が必要で、初年度は試行錯誤しながら進めているところです。

上田 悦子



病態検査学講座

◆病理検査学実習の紹介

患者さんから組織などを採取し癌などの病気を診断するための検査が病理検査で患者さんの病気の診断や治療に大きく貢献しています。病理検査を行ううえで、薄切や染色は病院の病理検査部門で働く臨床検査技師の重要な仕事です。2年生後期の病理検査学実習では、薄切や染色など病理検査に関する実習を行っています。実習の初めの頃は不慣れな様子も見られますが、実習回数を重ねていくうちに学生の皆さんは手際が良くなってきます。実習内容は実際の病院の病理検査部門で役立つ内容となっています。実習を通して、技術習得に努めていただきたいです。

松下 倫子



認知症予防学講座紹介

◆認知症予防学講座のトピックス

認知症予防学講座 浦上 克哉

今年度の認知症予防学特論の講義は30名と過去最多の受講者がありました（写真1：講義風景）。認知症予防への関心の高さが伺えました。

医学部の活動である「健康寿命延伸のためのスマート・ライフ・プロジェクト」の社会的フレイル班を担当し「Yonago デジタル健康フェスタ」のイベントに参加しました（写真2：イベント風景）。認知症の早期発見に役立つ脳年齢測定（のうKNOW）と嗅覚機能検査（ニンテスト）を多くの方に体験して頂くことができました。

2023年6月24日に日本臨床衛生検査技師会から「日臨床有功賞・特別賞」の表彰を受けました（写真3：表彰式）。認定認知症領域検査技師制度の創設、発展に貢献したことが評価されたものです。



写真1：講義風景



写真2：イベント風景



写真3：表彰式

地域貢献活動

◆にちなんふる里まつり連携出前科学実験教室

生体制御学講座 藤原 伸一

「にちなんふる里まつり」は鳥取県日南町で毎年開催される、町内の一大イベントです。鳥取大学では、地域貢献活動としてこのイベントに出前科学実験教室を出展しており、私も10年以上前から科学実験の講師としてこの活動に関わるようになりました。この科学実験教室の企画・運営は、現在、鳥取大学技術部のスタッフが中心となって行っていますが、その中には検査技術科学専攻の卒業生もあり、科学実験講師としても子供たちの人気を集めていました。今年度も、小学生未満の子供や家族連れ、お年寄りまで幅広い年齢層の計86名の来場者がこの出前科学実験教室に足を運び、それぞれのブースで科学実験を楽しみながら学びを得ることができました。



学術・研究活動

看護学生の異文化看護海外研修の基盤構築 令和5年度学長裁量経費(国際戦略)事業

地域・精神看護学講座 安部 由紀

現在の日本は、在留外国人約 320 万人と過去最高を記録し、すでに「国際化した社会」です。外国人患者を受け入れた医療機関は外来で約 8 割、入院で 6 割にも上り、国際医療部などを開設する病院も増加傾向にあります。しかし、様々な異文化背景をもつ外国人患者に関し、多職種と同様に看護職者も苦手意識が強いという調査結果があり、文科省は看護基礎教育における異文化理解を深める教育の重要性を唱えています。本事業ではタイの看護大学、医療機関、行政機関、山岳民族地域、孤児院などを研修候補地として視察し、今後、学生が多角的に現地の人々の生活や活動に触れ、異文化共生の重要性や異文化看護実践力の基礎を養える教育環境づくりを目指しています。



孤児院の子供たち



メイファールアン大学看護学部の学生と先生



保健師・看護師と訪問看護

入試小委員会活動 出身校へ里帰り訪問&本校PRプロジェクト

地域・精神看護学講座 仁科 祐子
母性・小児家族看護学講座 山崎 歩

本校では、高校生に向けて本校をPRするために、在校生による高校訪問プロジェクトを行っています。COVID-19の影響によりしばらく休止していた事業ですが、今年度から再開することとなりました。本事業は、夏休みを利用して実家に帰る学生が、ついでに出身校を訪問し、お世話になった先生方や生徒さんへ、大学生活や看護学について、話をきてもらうというものです。学生は出身校の先生に自らアポイントをとり、高校へ出向き、大学生活について話をきてきます。高校の先生にお礼の連絡をすると、「勉強だけでなく様々なことに積極的に取り組んでいるようで心強く思いました」などの嬉しいお言葉を多くいただきました。一方、「全国には多くの看護大学があり、それぞれの特徴をもっとPRしてほしい」というお言葉もいただきました。本校の特徴をPRするために、また来年も、学生の皆さん、ご協力をよろしくお願いいたします!

出身高校より講演依頼があり、生徒さんに向けて講演をした時の様子
(看護4年大原みなみさん)



大学院生の研究紹介

大学院での経験

医科学専攻博士前期課程1年
門脇 徹

私は微生物研究室に所属しており、2020年から流行し始めた新型コロナウイルス感染症に関する研究を行っています。具体的には、精度を保ったまま、より迅速・簡便に新型コロナウイルスのPCR検査を行う方法の研究を行っています。この研究を通して、新型コロナウイルスをより迅速・簡便に検査する技術を臨床にも応用できるかもしれません。今後も研究を進め、医療の発展に貢献していきたいと思っています。



苦楽しい

医科学専攻博士後期課程3年
廣田 颯香

大学で教員をしながら院生として学んでいます。研究は「スマートフォンが褥婦の睡眠や疲労感に与える影響」について取り組んでいます。日々自身の力不足を痛感しますが、同時にじんわりと成長を感じることもあり、奥深いです。千葉大の近藤克則先生が「研究は苦楽しい」とお話をされていました。これから楽しさも噛み締められるようになっていきたいです。そして、研究したことをケアとして臨床にお返しできるよう頑張っていきます。

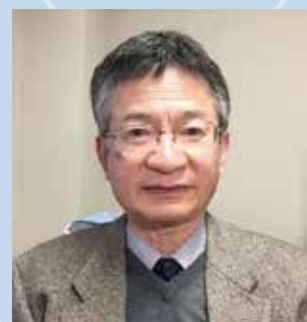


新任・退職教員からのメッセージ

退任のご挨拶

生体制御学講座 網崎 孝志

この3月末に定年退職を迎えることになりました。2000年4月に、保健学科1期生とともに、鳥取大学医学部保健学科教授に着任してから、振り返ると、あっという間の24年間でした。当初は、情報科学、その後、臨床薬理学や統計学も担当し、また、研究では、タンパク質構造に計算科学的アプローチから取り組み、かけがえのない日々をすごさせていただきました。これまで出会った学生の皆さん、教職員の皆さん、ありがとうございました。皆様のご活躍、ご健康と、保健学科のますますの発展を願っています。



退任のご挨拶

生体制御学講座 二宮 治明

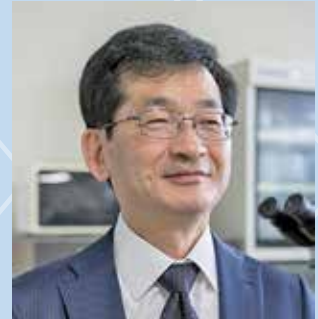
過ぎてしまえばあっという間ですが、30年近くものあいだ鳥大医学部にお世話になりました。なんとか大過なく過ごしてこれたのはまわりの皆さんのおかげと感謝しています。時々、患者として附属病院外来を訪れると、卒業生がてきぱき働いているのを見てうれしく思います。私の講義で聞いたことがほんのちょっとでも役に立っていればいいのですが。お世話になった職員の皆さま、そして卒業生の諸君のご健勝とお仕事の発展をお祈り申し上げます。



退任のご挨拶

病態検査学講座 北村 幸郷

平成 20 年4月に鳥取大学医学部分子病理学分野から、医学部保健学科病態検査学講座に異動し、その後 16 年間にわたり教育、研究に努めてまいりました。学部教育については、病理学を主として担当し、大学院教育については細胞検査士の育成も含めて教育、研究指導などを担当してきました。学部学生との課題研究や、大学院生の研究指導を通し、多くのことを学ぶことができました。感謝しております。



検査の教育は新しいカリキュラムが始まり、新たなスタートを迎えました。日本の未来を担う学生の皆さんが伸び伸びと成長し、社会で活躍していただくことを願っています。最後に、在任期間中に教職員の皆様から賜りましたご高配に心から御礼申し上げます。

退任のご挨拶

基礎看護学講座 Timothy Lewis Wiltshire

I'd like to express my deepest appreciation for all the people at Tottori University, specifically those at the Faculty of Medicine, for making my many years as a lecturer in English a rewarding and fulfilling experience. I will miss being a full-timer and regret that I can't stay longer. I will never forget my many good friends among the teachers, staff, and students and will always be in debt to Dr. Kenzo Takeshita, former Dean of the Faculty of Medicine, who initially hired me as general English consultant in the Department of Child Neurology. His guidance was exemplary. My colleagues in the Department of Fundamental Nursing have been the best people I have ever worked with because of their genuine concern for my well being and their kindness. Most importantly, I want to thank my wife Kazumi Terai and her family for making my dream of teaching in Japan come true. Since I was a child, I always wanted to come to Japan. It seemed like a fascinating place to me and it still is with its culture and natural beauty. So, if you see me walking by, say "Hi, Tim!" Then you can practice your English!



新任教員紹介

母性・小児家族看護学講座 藤田小矢香

2023年4月より医学部保健学科 母性・小児家族看護学講座に着任いたしました藤田小矢香と申します。

私はこれまで鳥取大学、島根県立大学で母性看護学・助産学の教育に携わってまいりました。私が主に担当する母性看護学では予防の視点やより健康レベルを高める支援が大切です。そのため研究においては特に女性を対象に未病を防ぐための支援について取り組んでいます。教育では学生の強みを最大限に活かし、秘めたる可能性を伸ばしていくお手伝いができるよう伴走者として寄り添っていきたいと思います。そして自己効力感を高め人間力を発揮しながら、様々な課題に対応して行ける看護師・助産師の育成に努めたいと思います。

これまでの経験を発揮し、精一杯貢献して参る所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



新任教員紹介

基礎看護学講座 宮本まゆみ

令和5年10月に鳥取大学医学部保健学科基礎看護学講座に着任しました宮本まゆみと申します。これまで養護教諭や看護師を経たのち、島根大学で看護教育・研究に携わってきました。

教育では1・2年生の看護援助技術科目を担当しています。看護は科学的な根拠に基づいて提供されますが、それを最初に示したのがナイチンゲールです。そのナイチンゲールがクリミア戦争で看護に従事してから、今年でちょうど170年。奇しくも現在同じ地域でウクライナ戦争が繰り広げられています。私自身、看護の原点に返りながら、学生の学びを支援していきたいと思っています。

また、研究では高齢者の転倒予防をテーマに取り組んでいます。なかでも、転倒リスク要因の一つである排泄に関連した離床行動をより早くキャッチするためのシステムの構築を目指しています。鳥取大学でも他分野の先生方と連携を取りながら、より一層研究を進めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



令和5年度 卒業研究演題一覧

基礎看護学講座

1. 夫婦以外の第三者が関わる生殖補助技術の倫理問題 —医療者は患者や家族にどう関わるべきか—
2. 安楽死合法化の手前で考えるべきこと —医療者として何ができるか?—
3. 遺伝性乳がん卵巣がん症候群の遺伝学的検査受検から診断、予防的切除までの思いおよび医療者に対する要望に関する文献検討
4. 腰椎疾患による慢性腰痛患者のセルフケアの実相 —外来通院中の患者へのインタビューを通して—
5. 2型糖尿病性腎症患者の血液透析導入に至る心理状態に関する文献検討
6. 看護学生の過剰適応の程度と援助要請スタイルとの関連 (第2報) —量的分析より—
7. 看護学生の過剰適応の程度と援助要請スタイルとの関連 (第2報) —質的分析より—

成人・老人看護学講座

1. ストーマを造設した患者の心理過程に関する文献検討
2. 子育て期にある初発女性乳がん患者の子どもへの告知についての不安
3. 救命救急現場における代理意思決定に伴う家族のニーズと看護師の支援についての文献検討
4. クリティカルケア領域における新人看護師の困難感 —和文献を対象とした文献検討—
5. 高齢運転者の安全対策に関する研究の動向と運転寿命延伸に向けた課題 —KH Coderによる計量テキストマイニング—
6. 認知症高齢者を支える男性介護者の心理的負担に関する文献検討
7. ALS患者家族の介護負担感に関する文献検討
8. 看護師が抱える糖尿病患者指導時の困難感に関する文献検討

母性・小児家族看護学講座

1. 閉経後乳がんのリスクとなる食材と予防となる食材について文献検討
2. 医療的ケア児の母親が在宅移行期に子どもの体調管理をするなかで抱える困難と対処についての文献検討
3. 自閉スペクトラム症児と生活する母親のストレスと必要な支援についての文献検討
4. 小児がんで入院している子どもに付き添っている親の思いと看護師の支援に関する文献検討
5. 経膈分娩の満足感に影響する要因の文献検討
6. 児の栄養方法の選択に関する要因についての文献検討
7. 食物アレルギーをもつ子どもの母親が抱える療養管理上の困難と対処について
8. 未産婦の月経随伴症状の軽減 —効果をより高めるマンスリービクス—

地域・精神看護学講座

1. 発達障害児とその家族の支援における保健師の役割と機能についての文献検討
2. 家族介護者の介護肯定感に影響を与える要因について —KH Coderによる文献検討—
3. 外国人母子が地域で子育てをする上での保健師の困難感と役割に関する文献検討
4. ASDを持つ人への就労支援における現状と課題に関する文献検討
5. 独居高齢者の特徴と訪問看護師等による支援

生体制御学講座

1. NPC1-Like1 依存性コレステロール輸送における ORP10 の役割
2. 分子動力学シミュレーションによる hMTH1 のプロトネーションと基質認識の解析
3. 脳損傷部位における細胞の死と生
4. アミロイドβ₄₂ が引き起こす脳の老廃物排泄機構の異常に関する基礎研究

病態検査学講座

1. 汎発性腹膜炎で死亡した横行結腸癌・多発肝転移の剖検例
2. 上半身挙上が睡眠の質に及ぼす影響
3. 培養肝細胞のリポ蛋白産生に与える脂肪酸の影響
4. PCR法を用いた遺伝子多型解析
5. 薬剤耐性遺伝子の発現量から考える耐性機序の解明

認知症予防学講座

1. 機械学習を用いた認知症検査方法の確立

令和6年度学級委員

看護学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏名	所属講座
令和6年度	1年生	高間さとみ 講師 / 安部 由紀 助教	地域・精神看護学
令和5年度	2年生	山崎 歩 教授 / 金山 俊介 講師	母性・小児家族看護学
令和4年度	3年生	中條 雅美 教授 / 長谷川慶幸 助教	成人・老人看護学
令和3年度	4年生	深田 美香 教授 / 藤原由記子 講師	基礎看護学

検査技術科学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏名	所属講座
令和6年度	1年生	中川真由美 准教授 / 高田美也子 助教	病態検査学
令和5年度	2年生	森 徹自 教授 / 高村 歩美 講師	生体制御学
令和4年度	3年生	臼井 真一 教授 / 松下 倫子 助教	病態検査学
令和3年度	4年生	藤原 伸一 准教授 / 上田 悦子 講師	生体制御学

※両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあたっています。

令和4年度医学部保健学科後援会事業報告

1. 教育助成

- 入学式関連
 - ・入学式
 - ・新入生オリエンテーション
- 大学説明会関連
 - ・オープンキャンパス (web)
- 教育関連
 - ・優秀学生表彰
 - ・看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- ・看護師等国家試験対策模試
- ・臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- ・教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- ・国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- ・錦祭

6. 後援会運営

- ・保健学科広報「アレスコ No.21」発行
- ・後援会役員会 (文書開催)

令和5年度医学部保健学科後援会事業計画

1. 教育助成

- 入学式関連
 - ・入学式
 - ・新入生オリエンテーション
 - ・大学入門ゼミ
- 大学説明会関連
 - ・オープンキャンパス
- 教育関連
 - ・優秀学生表彰
 - ・看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- ・看護師等国家試験対策模試
- ・臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- ・教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- ・国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- ・錦祭

6. 後援会運営

- ・保健学科広報「アレスコ No.22」発行
- ・後援会役員会

編集後記

いつもお読みいただきありがとうございます。今号も多くの皆様のご協力とご支援を得て、お届けすることができました。

私たちの周りでは常に変化が起こっています。世界で起こっている紛争問題、自然災害、痛ましい事件や悲劇、経済の混乱、健康への不安など、私たちの生活に新たな試練をもたらしています。どれほど困難な状況に直面しても、私たちは助け合い、柔軟に前に進むとする姿勢で、新たな挑戦に立ち向かっています。そんな中であつても、皆さまから寄稿いただき、多彩な記事をお届けできることを嬉しく思います。今回も様々な分野の教育・研究や地域の活性化に向けた取り組みなどをご紹介します。

最後にこの場を借りて、寄稿いただいた皆様、撮影にご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

次号も皆さまに有益な情報をお届けできるよう努めてまいります。引き続きご愛読を賜りますようお願い申し上げます。

(保健学科広報委員 三好陽子)

令和5年度 鳥取大学医学部後援会役員

役職名	氏名	役職指定	学生年次
会長	森 輝 美		医学6年
副会長	景 山 誠 二	医学部長	
副会長	島 村 文 枝		生命3年
副会長	野 口 佐智子		看護3年
理事	小 椋 崇 喜		医学3年
理事	十 河 卓 史		医学3年
理事	谷 口 晋 一	医学科長	
理事	松 岡 浩 一		生命2年
理事	嶋 義 郎	生命科学科長	
理事	平 川 美絵子		看護3年
理事	若 槻 澄 子		検査2年
理事	鯛 岡 直 人	保健学科長	
監事	長 尾 勝 人		医学5年
監事	加 藤 裕 子		生命3年
監事	前 田 陽 子		看護2年
会計	足 立 学	学務課長	

[発行責任者] 鳥取大学医学部保健学科後援会・鳥取大学医学部保健学科広報委員会
 [発行所] 鳥取大学医学部保健学科 (〒683-8503 鳥取県米子市西町 86 番地)
 [発行年月] 令和6年2月